

# 宇治山田商業高校課題研究 (商品開発) サポータ

メンバー数：3名 活動場所：伊勢市  
実施主体：三重県立宇治山田商業高等学校  
担当教員：筒井 琢磨（現代日本社会学部）  
活動年度：H29, H30

・伊勢について調べる

・伊勢の特産物から商品案を考える

・先輩の開発した商品を使った企業  
向けの試食会

・プレゼン練習  
・現3年生が開発した商品を企業  
にプレゼンするための準備  
・プレゼン練習催

・1年間に行ったことをパワーポ  
イントにまとめて発表、評価

2018

4

5

6

11

1

## ◆今年度の活動を振り返って(成果と課題)

今年度の宇治山田商業高校の商品開発では、現3年生の商品開発と3月に卒業した生徒が開発した商品を企業に売り込むことを同時に行っていました。4月から5月にかけて伊勢の歴史や特産物など伊勢について調べ、それを踏まえて各班で商品開発に使う特産物を選び、実際に商品の案を出していきました。学生も班の中に入れてもらい、可能な範囲でアドバイスを行いました。6月には企業向けの試食会があり、先輩の開発した商品を使った料理が振る舞われました。企業の方に意見を述べてもらい、生徒一人ひとりも意見を述べるなど、商品の開発から販売に向けて着々と準備が進められていました。次に参加したのは11月でしたが、すでに現3年生の商品が形になっており、企業に向けてのプレゼンの準備を行いました。完成した商品は面白いネーミングであったり、斬新なアイデアであったりと、高校生が考えたとは思えない出来栄でした。そして1月に参加したときには、次の3年生に向けた商品開発についてのプレゼンの発表を聞かせてもらいました。実は11月にも聞かせてもらったのですが、その時とは異なり、1月の発表ではクイズ形式を取り入れたり、イラストや写真を多く取り入れたりしている側を意識した、楽しませる発表へと成長していました。

成果として、商品の販売に向けて一歩近づいたこと、また一つ魅力的な商品ができたことがあります。

課題としては、月に1回程度しか本学の学生が参加できず、本学の学生と生徒が関わる時間が少なかった、学生と生徒の距離は縮まりにくく、お互いの持ち味がうまく発揮されませんでした。時間の少なさに加え、学生側のコミュニケーション不足もあったと思います。

商品開発の現在状況は、昨年度に引き続きネギペーストを商品化する方向で企業の方と話が進んでいること、現3年生が開発したカボチャップの商品開発を完成させることの2点です。

## 特にアピールしたいポイント

\* 昨年度の生徒が開発したネギペーストの話が販売方法まで進んでいること。

\* 学生が常に積極的に行動し、商品開発活動に携わり広く深い知識取得していたこと。

## 実施主体様の声

本校の商業科目「課題研究(商品開発)」の授業に、アドバイザー、ファシリテーターとしての位置づけで、参加してもらった。

高校生と年齢的に近いこともあり、生徒たちの良きお姉さんの存在として、生徒たちの中に入り、意見をまとめる手伝いや大人の視点からのアドバイスをもらい、研究テーマである商品開発の研究に尽力いただいた。また、授業評価にも参加してもらい、課題研究報告会におけるプレゼンテーションを、ルーブリックに従って客観的な立場で評価いただいた。(藤本英彦先生より)

